

児童発達支援事業所

2026. 6月号



Eメール koroiba_mori@basil.ocn.ne.jp
ホームページ <https://minnanomori.jp/>

<親子クッキングにご参加頂き、ありがとうございました>

5/9に親子クッキングを行い、子どもたちが普段からよく食べているメニューと一緒に作っていきました。野菜を包丁で切ったり、手でちぎったり、お肉に調味料を加えて袋の上から揉んで味付けをしたりと工程がたくさんありましたが、どの工程もそれぞれ張り切って参加してくれました。作っていく中で保護者の方同士の会話も弾み、子どもを通じて交流が深まった時間となりました。大好きな保護者の方やお友達と一緒に一つのものを作ったり、食事を一緒に行ったりすることが、子ども達の満足度や安心感にも繋がってきますし、人間の三大欲求の「食欲」の大切さを改めて感じるひとときでした。ころころでの生活の中でも、食事の時間を楽しく、笑顔でおいしく食べられるように心がけていきたいと思います。

感想より～

- ・ 普段あまりお話できていない保護者の方ともお話することができ、楽しかったです。
- ・ 今回の親子クッキングが2回目でしたが、1回目の後に息子から子ども用の包丁が欲しいと言ってきてお料理をしてくれています。
- ・ 子ども同士のやり取りが見られてよかったです。
- ・ 家では食べない野菜もパクパク食べていて気に入ったようです。 等等…



<まつのき保育園の柏餅作りに参加しました>

まつのき保育園のそれぞれのチーム（異年齢）に入り、柏餅作りを体験しました。大きい集団の中、保育園の子達に混ざって作り方の見本を見たり、柏の葉っぱを実際に触ってみたりしながら作っていきました。生地を伸ばしてあんこをつぶさないように包むことは難しさもありますが、話をよく聞いて、優しく指先で包んで作り、午後に自分たちで作った柏餅をおいしく頂きました。

行事の前日には栄養士から行事の由来についてイラストを交えて教えてもらいます。なぜ行事があるのか知ってから取り組む事で、期待感や理解にも繋がると思い、今後も継続して行っていきたいと思っています。



●たいよう●

＜ 雨が降った日のお楽しみ ＞

5月最初の日には雨でした。外遊びが大好きな子どもたちは残念そうに外を見ていました。でも大丈夫、雨が降った日のお楽しみは新聞遊び！この日も新聞紙を力いっぱい破ってお部屋をいっぱいにしたり、広げた一枚の新聞にパンチして穴を開けます。繰り返すうちに段々とコツをつかんで、一回で穴が開くようになりました！

床に寝転んでいた子にお布団のように一枚ずつかけて重ねていくと、重みが心地よかったのか気持ちよさそうに目を閉じました。何枚も重なっていき、下から「ばあ！」と飛び出してきました。

遊びの中盤にお楽しみのアイテムで段ボールが登場。担任は破った新聞紙を入れてお風呂を作ろうと考えていましたが、車が好きな子が多く「ゴミ収集車」になりました。部屋の中の新聞紙を回収しながら走ります。段ボールに取っ手用の穴が開いていましたが、「ジジジー」と言いながらその穴にシュレッターのように新聞紙を入れている子もいました。最後には「ゴミは工場に持ってきてください、今から燃やします」と伝えると、ごみ袋にたくさんの新聞紙を回収することができ、片付けることができました。

今では新聞を購読するご家庭も少なくなり、新聞を見たことがない子もいるかもしれませんね。一年間ころころで様々な遊びを経験しながら、お気に入りの遊びが増えていくといいなと思います。

☆ほし☆

＜お散歩に行こう～公園には宝物がいっぱい～＞

気持ちのよい春の季節、散歩に出掛けました。散歩が楽しくなってきた子ども達は登園すると「さんぽ、いきたーい」とリクエストしてくれます。散歩先は第2公園が多いです。

お友だちと手をつないでさあ出発！ころころの玄関を出て「さあ、どっちに行くでしょう？」と声をかけると「こっち」と右を指さして教えてくれます。

先日の散歩では左右を確認しているとリスが通りかかるのが見えました。車を確認していたはずなのに、リスを見つけてみんなでびっくりしました。四つ角の所では、左右前後の確認も行います。「車、来ていませんか？」と聞くと「来てないよー」と教えてくれます。道路を渡る時には、手もしっかりと上がるようになってきました。繰り返し積み重ねている経験がちゃんと生きています。

公園では、「みんなで一つ遊ぼう」と声をかけると「氷鬼」「かくれんぼ」「鬼ごっこ」と様々な遊びがあがります。子どもも大人も全速力で走り集団遊びを楽しんでいます。

自由遊びでは、遊具、木登り、虫探し、草花摘みと思い思いに遊びます。年長児の男の子が木登りをしていると、「やってみよう！」と挑戦している姿がありました。苦戦している姿を見て、「ここに、こうやって足をかけて登るんだよ」「見てて、やってあげるから」とナイスなアドバイスをして子ども達同士で遊びが展開する姿が見られます。シーソーでは「怖くないようにしてね」と年中児が年長児に伝えていました。ゆっくりやってくれると「楽しいねえ」とにっこり笑顔です。またある時には「ここにさあ、アゲハチョウがいたんだよ」とこっそり教えてくれ、大事な秘密の共有もしていました。異年齢で過ごすからこそ、散歩も公園での遊びもより一層楽しくなるようです。